

学芸員がおすすめる“この1点”

研ぎ澄まされた静寂、京都画壇を代表する作品

木島桜谷《寒月》1912(大正元)年



冬、夜の竹林。先ほどまで降っていたのか、あたり一面に雪が積もっています。その静寂のなかに見える、一匹の狐。周囲をうかがい、少し頼りなげに歩きながら、食べ物を探しているようです。遠くから続く足跡が、いっそう狐の寂しさを感じさせます。夜の闇、月の明かり、影をたたえる竹、白く光る雪。そして孤独な狐。これほどまでに抒情的な光景をよく表した作品は、近代日本画のなかでも白眉といえるでしょう。

この屏風は、木島桜谷が36歳のときに描いたものです。ある日鞍馬で雪に残った足跡を見つけ、空腹の狐を想像したのが制作の契機でした。その後本作は1912(大正元)年、全国の画家が集まる第6回文部省美術展覧会(文展)に出品され、最高賞である2等第1席を受賞しました(1等はなし)。それまでも、桜谷は第1回文展から続けて受賞しており、すでに抜群の実力が全国的に評価されていましたから、さらなる栄誉に京都は沸きました。

しかし実は、本作《寒月》が最高賞を受けるに至るまでには、様々な紛糾があったことが知られています。

文展の審査員をしていた京都画壇の代表格で、桜谷の師でもあった今尾景年は、《寒月》が最高賞であるべきだと主張しました。一方、同じ審査員で東京画壇の代表格、横山大観は東京の安田靉彦の《夢殿》の方が勝るとしました。こうして両者は激しく対立し、その結果《寒月》が2等第1席、《夢殿》は第2席となったのです。このことは、写生の技術や構図の巧みさを重要視する京都画壇と、発想の新規性や写実によらない精神性を評価する東京画壇の、絵画観の違いを明らかにする出来事でした。

自然を見つめる写生、雪の地面を斜めに描く伝統の偏角構図、月と動物、画面の余白が語る抒情性など、《寒月》には京都の花鳥画の伝統が息づいています。また同時に、群青で塗った鮮烈な竹を巧みに配置することによって、西洋画に学んだ写実的な奥行表現を試みるなど、桜谷なりの新たな挑戦も見取れます。京都画壇の伝統と革新を背負う、至高の一作です。

(当館学芸員 森光彦)

「待つ時間」を表現

金島桂華《画室の客》1954(昭和29)年

街中で延々と続いている人の列を見たことはありませんか? 注目されている新商品の発売や、大人気の飲食店など、目的の商品や経験を得るために、人々は、長い時間をかけて待つことを厭わないようです。インターネットですぐに欲しい物が手に入る便利な現代社会ですが、それでも「待つ時間」はいつも私たちの身近にあります。このような「待つ時間」を表現した日本画を紹介します。

金島桂華の《画室の客》では、二匹の犬が、各々の主人の帰りを待っている様子が描かれています。白いスピッツは、画室に慣れている様子から、画家の飼い犬で、黒いプードルは、深緑の首輪とリードをつけていることから、画室に来た客人の飼い犬なのでしょう。

室内の様子をさらに詳しく見てみましょう。スピッツが前足を乗せている異国風の椅子には、白い手袋と黒いハンドバッグが置かれています。これらの小物から、客人が女性であることがほのめかされています。その奥には、シンプルなイーゼルがあり、紅蜀葵を描いた作品が置かれています。また、床は淡いピンク色、壁は山吹色で彩色することで、鮮やかな色彩のコントラストを表し、手袋とハンドバッグ、二匹の犬のそれぞれが白黒で対比されており、モダンな印象を与えています。

二匹の犬はおとなしい様子で待ち、主人が不在であることの静けさを伝えます。このように、人物を描かずにその存在を暗示する手法は、源氏絵などに見られる「留守絵」表現の伝統を思わせます。「留守絵」とは、本来描くはずの人物を画面の外に置き、画面には人物の痕跡を描いている絵のことを言います。またこの表現では、人物は出かけた後で、やがて帰ってくるといった時間の流れを表しています。

つまり《画室の客》では、二匹の犬が主人の帰りを「待ち続ける」といった、経過する時間が表現されているのです。

ゆっくりと《画室の客》と向き合い、少し「待って」みると、描かれていない画家と客人、二人の姿を含めた画室の全体へ、思いを巡らしながら鑑賞する楽しみを持つことができます。「待つ時間」は、私たち鑑賞者の想像力に刺激をもたらす、豊かな時間と言えるでしょう。

(当館学芸員 長尾衣里子)

コレクションルーム 冬期

2021年12月11日[土]—2022年3月26日[土] 本館 南回廊1階

京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

出品作品リスト

※都合により、出品作品を変更することがございます。あしからずご了承下さい。

No.	登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ(cm)	初出展
		しずかなる絵						
1	日-170	木島桜谷	明10-昭13	寒月	1912(大正元)年	絹本着色 屏風 六曲一双	各167.0×372.0	第6回文展
2	日-187	上村松篁	明35-平13	池	1954(昭和29)年	紙本着色 額	180.0×149.0	第18回新制作展
3	日-208	徳岡神泉	明29-昭47	流れ	1954(昭和29)年	紙本着色 額	132.0×170.0	第10回日展
4	日-120	石本 正	大9-平26	風景	1948(昭和23)年	紙本着色 額	91.0×152.0	第4回京展 (京展賞第一席受賞)
5	日-039	上村松篁	明35-平13	山鹿	1936(昭和11)年	絹本着色 額	183.5×289.0	昭和11年文展招待展
6	日-644	森 寛斎	文化11-明27	山水図屏風	1860(万延1)年	紙本墨画淡彩 屏風 六曲一双	各171.0×374.0	
7	日-306	福田平八郎	明25-昭49	閑庭待春	1925(大正14)年	絹本着色 パネル3枚組	各193.0×180.0	第6回帝展
8	日-156	平井樗仙	明22-昭44	寒江暮色	1929(昭和4)年	絹本着色 屏風 二曲一隻	242.0×272.0	第10回帝展
9	日-093	北沢映月	明40-平2	明裳	1940(昭和15)年	紙本着色 屏風 二曲一双	各176.0×178.0	紀元2600年奉祝 日本画展
10	日-124	小野竹喬	明22-昭54	冬日帖	1928(昭和3)年	紙本着色 額 2枚1組 3面	各37.5×45.5	第7回国展
11	日-397	麻田辨自	明32-昭59	水光	1956(昭和31)年	紙本着色 額	162.0×130.0	第12回日展
12	日-254	池田遙邨	明28-昭63	寂	1970(昭和45)年	紙本着色 額	162.0×97.0	第15回青塔社展
13	日-221	福田翠光	明28-昭48	月明(銀閣池)	1968(昭和43)年	紙本着色 額	136.0×147.0	第11回新日展
14	日-753	川島 浩	明43-平6	晨	1986(昭和61)年	紙本着色 額	156.0×217.0	第18回改組日展

異国の情景								
15	日-239	都路華香	明3-昭6	東萊里の朝・ 萬年台の夕	1920(大正9)年	紙本着色 軸 対幅	各168.1×90.5	第2回帝展
16	日-782	野長瀬晩花	明22-昭39	水汲みにいく女	1925(大正14)年	木綿着色 屏風 二曲一隻	167.0×185.0	第5回国展
17	日-562	秋野不矩	明41-平13	中庭の祈り	1984(昭和59)年	紙本着色 額	129.4×134.5	京都市芸術文化協会 主催選抜展
18	日-174	西山英雄	明44-平1	イビザの裏街	1964(昭和39)年	紙本着色 額	100.0×81.0	個展
19	日-598	西山英雄	明44-平1	紫禁城	1988(昭和63)年	紙本着色 額	93.0×235.5	
20	日-610	堂本元次	大12-平22	気満ちる山湖	1987(昭和62)年	紙本着色 額	160.0×224.0	第19回改組日展
21	洋-141	都鳥英喜	明6-昭18	モンチニーの黄昏	1921(大正10)年	油彩 キャンバス 額	62.5×79.5	滞欧作
22	洋-095	太田喜二郎	明16-昭26	バルコンの女	1911-12 (明治44-45)年頃	油彩 キャンバス 額	130.5×97.0	滞欧作
23	洋-178	太田喜二郎	明16-昭26	ガンの橋	1909(明治42)年	油彩 キャンバス 額	39.0×49.0	滞欧作

No. 登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ(cm)	初出展
24 洋-345	川端弥之助	明26-昭56	エッフェル塔	1924(大正13)年	油彩 キャンバス 額	80.2×65.5	サロン・ドートンヌ(1924年)、滞欧作
25 洋-431	川端弥之助	明26-昭56	アカデミーコラロッシンにて	1923-25(大正12-14)年	油彩 板 額	15.7×22.0	滞欧作
26 洋-430	川端弥之助	明26-昭56	マルセーユ・ビューポール	1923-25(大正12-14)年	油彩 板 額	15.6×22.0	滞欧作
27 洋-428	川端弥之助	明26-昭56	カフェドラベのテラス(巴里にて)	1923-25(大正12-14)年	油彩 厚紙 額	15.6×21.9	滞欧作
28 洋-227	里見勝蔵	明28-昭56	橄欖	1960-62(昭和35-37)年	油彩 キャンバス 額	74.5×93.0	第36回国画会展、滞欧作

京焼の優品 楠部彌弍と近藤悠三							
29 工-029	楠部彌弍	明30-昭59	青華水指	1941(昭和16)年	磁器	15.5×23.0×21.5	第4回新文展
30 工-054	楠部彌弍	明30-昭59	均窯山花瓶	1963(昭和38)年	磁器	高19.5, 胴径25.5, 口径24.0	個展
31 工-167	楠部彌弍	明30-昭59	染付菓子器	1924(大正13)年	陶器	高5.7, 口径20.0	
32 工-163	楠部彌弍	明30-昭59	釉裏紅魚文花瓶	1973(昭和48)年頃	磁器	高24.0, 胴径26.8, 口径13.4	
33 工-165	楠部彌弍	明30-昭59	均窯花瓶	1938(昭和13)年	磁器	高25.2, 胴径12.6, 口径5.0	
34 工-174	近藤悠三	明35-昭60	梅染付金彩壺	1983(昭和58)年	磁器	高21.4, 胴径24.0, 口径14.3	
35 工-171	近藤悠三	明35-昭60	梅金彩壺	1979(昭和54)年	磁器	高23.5, 胴径25.8, 口径16.0	
36 工-175	近藤悠三	明35-昭60	「布士の歌」染付皿	1983(昭和58)年	磁器	高4.5, 直径34.3, 高台径19.8	
37 工-170	近藤悠三	明35-昭60	柘榴染付壺	1984(昭和59)年	磁器	高25.5, 胴径28.0, 口径17.2	
38 工-082	伊東翠壺	明27-昭55	方円菱花文花瓶	1934(昭和9)年	磁器 呉須 象嵌	高43.0, 胴径17.2	
39 工-265	鈴木 治	大15-平13	風ノ口笛	1989(平成1)年	陶器	52.0×48.0×23.5	個展

画家のアトリエ							
40 日-284	亀井玄兵衛(藤兵衛)	明34-昭52	自画像	1948(昭和23)年	紙本着色 額	186.0×122.0	第20回青龍社展
41 日-013	川上拙以	明34-昭51	画室の一隅	1934(昭和9)年	紙本着色 額	167.0×137.0	大礼記念京都美術館展
42 日-843	梶原緋佐子	明29-昭63	静閑	1938(昭和13)年	絹本着色 額	161.0×204.0	第2回新文展
43 日-020	金鳥桂華	明25-昭49	紅蜀葵	1934(昭和9)年	絹本着色 額	208.5×165.0	第15回帝展
44 日-212	金鳥桂華	明25-昭49	画室の客	1954(昭和29)年	紙本着色 額	168.0×136.0	第10回日展
45 洋-033	安藤信哉	明30-昭58	画室にて	1938(昭和13)年	油彩 キャンバス 額	64.0×115.0	第2回新文展
46 洋-046	近藤光紀	明34-昭23	少女像	1941(昭和16)年	油彩 キャンバス 額	79.0×64.0	第4回新文展
47 洋-262	由里 明	大1-昭59	こども	1948(昭和23)年	油彩 キャンバス 額	145.5×97.0	第4回日展
48 洋-236	三雲祥之助	明35-昭57	制作(後姿)	1952-53(昭和27-28)年	油彩 キャンバス 額	81.0×100.0	第30回春陽会展

No. 登録番号	作者	生没年	作品	制作年	形状・材質	サイズ(cm)	初出展
室内にいる女性							
49 洋-091	太田喜二郎	明16-昭26	レッスン	1911-12(明治44-45)年頃	油彩 キャンバス 額	49.5×40.0	滞欧作
50 洋-745	田村宗立	弘化3-大7	官女弾琴図	1897(明治30)年頃	油彩 キャンバス 額	56.7×88.5	第3回新古典美術品展
51 洋-002	小磯良平	明36-昭63	踊りの前	1934(昭和9)年	油彩 キャンバス 額	115.0×89.0	大礼記念京都美術館展
52 洋-034	寺内萬治郎	明23-昭39	楽器を持てる女	1939(昭和14)年	油彩 キャンバス 額	72.7×60.5	第3回新文展
53 洋-158	黒田重太郎	明20-昭45	梳る女	1926(大正15)年	油彩 キャンバス 額	116.0×84.0	
54 洋-261	錦 義一郎	明31-昭37	髪を洗ふ	1940(昭和15)年	油彩 キャンバス 額	117.0×90.0	第27回二科展
55 洋-733	南 素行	明23-昭42	姉妹	1940-45(昭和15-20)年頃	油彩 キャンバス 額	36.7×45.4	
56 洋-155	水清公子	明24-昭52	窓際	1947(昭和22)年	油彩 キャンバス 額	90.0×116.5	
57 洋-177	山田新一	明32-平3	読後	1929(昭和4)年	油彩 キャンバス 額	91.0×73.0	サロン・ドゥ・チュイルリー
58 洋-127	澤部清五郎	明17-昭39	絵をかく少女	1912(明治45)年	油彩 キャンバス 額	51.5×43.5	滞欧作
59 洋-039	木下孝則	明27-昭48	少女読書	1940(昭和15)年	油彩 キャンバス 額	59.5×49.0	第5回市展

時空を超えた眼							
60 彫-032	菊池一雄	明41-昭60	アトリエの女王様(試作)	1975(昭和50)年	ブロンズ	63.0×20.0×46.0	
61 彫-068	菊池一雄	明41-昭60	ゑがれ D	1979(昭和54)年	ブロンズ	37.0×41.0×23.5	第3回日動彫刻展
62 彫-025	菊池一雄	明41-昭60	青年	1948(昭和23)年	ブロンズ	171.0×45.0×31.0	第12回新制作展
63 彫-040	松田尚之	明31-平7	ポーズする乙女	1972(昭和47)年	ブロンズ	123.0×66.0×50.0	第4回改組日展
64 彫-015	藤井浩佑	明15-昭33	鏡	1938(昭和13)年	ブロンズ	82.0×42.0×33.0	第2回新文展

京都・染の系譜							
65 工-035	稲垣稔次郎	明35-昭38	牡丹之図和紙糊絵屏風	1943(昭和18)年	筒描糊絵 紙 屏風 二曲一隻	169.0×176.0	第6回新文展(特選)
66 工-014	小合友之助	明31-昭41	染額双馬図	1935(昭和10)年	蠟纈 紬地 額	162.0×72.0	第1回市展(紅賞受賞、京都市買上)
67 工-080	佐野猛夫	大2-平7	寂	1977(昭和52)年	蠟纈 綿地 屏風 二曲一隻	160.5×157.0	第9回改組日展
68 工-509	渋谷和子	昭7-	1979 No.2	1979(昭和54)年	型染 ステンシル 墨 和紙 屏風 二曲一隻	178.0×138.0	第31回京展(市長賞受賞)
69 工-865	中井貞次	昭7-	集積	1969(昭和44)年	浜糸 屏風 二曲一隻	184.0×170.0	第1回改組日展(特選)
70 工-188	春日井秀大	明43-昭59	やちぜんまい	1956(昭和31)年	染色 屏風 二曲一隻	175.0×190.0	第12回日展